

山形
＝「なんでもできる」
「挑戦できる」場所

「何もない」を
覆せ！

代表
齋喜 祥吾 さん
山形大学工学部 3 年生
山梨県出身。

福田 彩美 さん
東北芸術工科大学 2 年生
福島県出身。

やまがた学生情報局は、さまざまな高校・大学の学生が集まり、学生視点で山形を楽しむための情報や、コラム記事を発信しているグループです。今回は、やまがた学生情報局の活動と想いを、代表の齋喜祥吾さんとメンバーの福田彩美さんに伺いました。

やまがた学生情報局とは？

齋喜 メインの活動は記事の執筆です。スローガンは、「山形の学生生活をちょっと面白くする」。記事以外にも SNS の運用をしています。インスタグラムの「やまじょー」（やまがた学生情報局の略）の公式アカウントと、グルメアカウント「山形学生グルメ」、それからやまじょーX の 3 つです。

福田 SNS では投票などを活用して、読みたい記事、困っている事、おすめのカフェなどをフォローに問いかけて、情報を集めることもあります。

齋喜 現在は高校生から大学生までの 7 名で活動しています。それからたまに OB の方が記事を書いてくれることもあります。団体のコンセプトは「WHY・WHAT・HOW」。WHY（なぜ）＝学生たちが山形での暮らしを楽しくしてもらいたい。WHAT（なにを）＝役立つ情報を提供する。HOW（どのように）＝正直に、友達感覚でタイムリーに。これを軸に記事や SNS を作っていくように徹底しています。特に HOW の「どのように情報を提供するか」に気を付けていて、ほかのメディアとの差別化も意識しています。友達と話しているような感覚の記事でありたいです。

活動を始めたきっかけ

福田 私は 2024 年の夏に入りました。きっかけはすでにメンバーだった同級生の影響です。私自身、地域系の学科を専攻しているのですが、地域にかりたいという想いはあったのですが、ハードルが高いなと思っていました。でもやまじょーなら仲間がいてすごく入りやすかったです。また、SNS 運用に興味があり、インスタグラムや X での発信や企画を高校生の頃からして、続けていきたいという想いもありました。

齋喜 私は一年生の時です。きっかけは 2 つあります。ひとつは、大学入学を機に個人での情報発信をしてみたいと思っていたこと。もうひとつは、出身地である山梨県から、せっかく山形県まで来たので、山形のことを知りたいと思っていたこと。この 2 つの想いを持っている時に、インスタグラムで見つけたのがやまじょーのメンバー募集でした。「これだ！」と思って、勇気をもって応募しました。

福田 私はやまじょーを知ったきっかけはインスタグラムでしたね。飲食店情報とかよく見て。学生の間では結構有名じゃないかな。

福田 私としては、ほかの大学の学生や高校生とかかわる機会が少ないなと思います。なにか、もっとつながりが感じられる場所があったらいいですね。

山形の学生に足りないこと

齋喜 ワクワクした気持ちが必要だと思います。在学中に山形県が急に大都会になるということはないじゃないですか。だから、限られた環境でどれだけ楽しめるか、山形の良いところを見つけれられるか。ワクワクした視点で生活するともっと若者世代が盛り上がると思います。そういう視点をやまじょーで助けたいです。

大変だなと感じること

齋喜 代表として運営をしているので、とにかく人手不足（笑）。これが一番の課題です。メンバー募集や説明会などを SNS で広報していますが、なかなか卒業との両立も難しく、続かないこともあって。やる気はあるけどできないという人もいて、もどかしいですね。

福田 やっぱ両立が大変ですね。卒業とアルバイトにプラスしてやまじょーとなる。

齋喜 僕は部活もしていることや、3 年生になって研究室が忙しかったというのもありますね。

でも、週に一度はオンラインで集まって編集会議をしています。一人月一本は記事を出そう、というのを目標に頑張っています。本当はもっと増やしていきたいんですけどね。基本的に、メンバーそれぞれが企画・取材・執筆・サムネイル作成・記事掲載まですべて一人でしています。もちろん、入ってから研修やサポートはありますよ。

福田 研修は結構手厚かったです。3 回くらいオンラインでレクチャーしてくれて、ルールもまとめてあったので、活動が始めやすかったです。

活動してよかったこと

福田 私の知らない山形がいっぱいあるなと思いました。みんな「山形は何もない」って言うじゃないですか。けど、そうかな？ っ。私は福島県出身ですが、山形を魅力的に感じていたので、そう言われると疑問を感じていました。ただ、具体的に何が、と聞かれるとわからなくて（笑）。でも、やまじょーに入ってから、山形でも遊べるんだ」「おいしいところいっぱいあるんだ」というのに気付いて、山形の何もないを覆せ！ という考え方になりました。

齋喜 やっぱ、山形について自分から知りに行くことができるので、ほかのみんなよりは山形を知ってるんじゃないかなと思いますね。それから、技術的なところ。記事を作るための企画力や文章力、それからサムネイルを作るためのデザイン力とか、そうしたスキルもついたし、パソコンにも強くなったかな。

福田 記事作成のツールを使えるようになったのは強いかも。将来いろんなところで役に立つスキルかな。

齋喜 ワードプレスやキャンバ、グーグルドライブなど、そうしたツールですね。

▼週に一度のミーティングでは、これからの企画を話し合います。

